

2022（令和4）年度

東北大学法科大学院入学試験 一般選抜（前期）・法曹基礎課程特別選抜（開放型）

試験科目：刑事法（刑法）

【設問】

以下の【事例】に記載された事実が真実であることを前提にして、X及びYの罪責について論じなさい（特別法違反の罪は除く。）。

【事例】

1 X（男性・28歳・身長170cm・体重75kg）とY（女性・24歳）は夫婦であり、ともに飲食店A（以下「A」という。）に勤務していたが、不況のためにAの経営状態が悪化した結果、ともにAを解雇され、生活費に困るようになった。Xは、生活費を得るために、旧知の間柄であるV（女性・50歳・身長150cm・体重50kg）が一人で暮らしているS市I区のLマンション101号室（以下「V方」という。）に夜中に忍び込み、眠っているVを包丁で脅して、現金を奪う計画を立て、Yに伝えたところ、Yも同計画を実行することに賛成した。その後、XとYはさらに話し合い、①Yが運転するY所有の普通乗用自動車（以下「Y車」という。）にXが同乗し、Lマンション付近まで行き、Xを降車させること、②XはY車を降車した後、目出し帽を被って、V方に立ち入り、持参した包丁でVを脅して現金を奪うこと、③Yはその間Y車の中で付近の様子を見張り、異変があった場合は、Xのスマートフォンに架電して、連絡することなどについて合意した。

2 2020年8月1日午前1時30分頃、上記計画に基づき、XとYは、Yが運転するY車でLマンションに向かい、同日午前2時頃、同マンション付近に到着すると、YはY車を路上に止め、その後、XはY車を降りて、目出し帽を被ると、V方に向かった。Xが、V方の玄関ドアの施錠の有無を確認したところ、無施錠であったため、XはそこからV方に立ち入った。

3 V方に立ち入ったXが寝室に向かったところ、その途中のリビングルームの机の上にV所有の財布が置かれているのを発見した。Xが同財布を取り上げ、中身を確認したところ、現金は5000円しか入っていなかったが、C銀行発行のV名義のキャッシュカード（以下「本件カード」という。）が入っていたため、XはVを持参した包丁で脅して本件カードに係る暗証番号を聞き出し、本件カードを使用して現金を引き出そうと考えた。そこで、Xは上記財布を自己のズボンの後ろポケットに入れ、寝室に向かった。

4 寝室に立ち入ったXは、眠っているVの身体を揺さぶり、「おい、起きろ。」と言い、Vが目覚めると、Vに対して、包丁を突き付けながら、「静かにしろ。お前の財布の中に入っているC銀行のキャッシュカードの暗証番号を教えろ。暗証番号を教えれば、殺しはしない。」などと申し向けた。眠っているところを、いきなり襲われたVは、指示に従わなければ殺されると思い、やむなく本件カードの暗証番号を教えた。暗証番号を聞いたXは、Vに対し、「俺が外に出るまで、ここを動くな。動いたら殺す。」と言うと、V方から出て、Y車に向かった。

5 同日午前2時25分頃、XがY車の助手席に乗り込むと、YはY車の運転席で眠っていた。XがYを起こすと、Yは、「ごめんなさい。あなたがマンションの中に入っていった後、すぐに眠くなって寝てしまったの。」と答えた。それを聞いたXが、「お前、こんな状態でよく寝られるな。寝てたら見張りにならないだろ。まあいい。金は5000円しか取れなかったが、キャッシュカードが取れた。暗証番号も聞き出した。」と言うと、Yは、「カードが取れたんなら、それでいいじゃない。」と答え、自宅に向かってY車を発進させた。

以上